

# 北方っ子育成頑張りプロジェクト ～地域の宝をみんなの力で育てよう！～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
登米市立 北方小学校	北方小学校学校運営協議会 平成28年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	北方小応援団



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

子どもたちを育成するために、これまで「北方あいさつの日」「北方の里合宿通学」など様々な活動を行ってきた。また熟議を重ねる中で「北方小学校運営協議会の目指す子ども像」が話題として挙がった。

そこで、これまでの活動を系統づけるとともに、「地域の宝である子どもたち」を育むために何ができるかを協議し、「北方っ子育成頑張りプロジェクト」を作成し、学校・子ども・家庭・地域がそれぞれの立場でどのようなことを頑張るかを定めた。

### 目標や目指す姿(学校)

よく考える子ども・体をきたえる子ども・思いやりのある子ども

### 目標や目指す姿(地域)

北方という地域を愛する子ども



## 北方小学校学校運営協議会 の特徴

### 委員の立場や属性等

- 北方地区コミュニティ推進協議会長
- おやじの会代表
- 北方公民館長
- PTA会長(前会長含む)
- 地区子供会育成会長
- スクールボランティア
- 区長会代表
- など、計 **20** 名で構成
- 地元企業代表
- 年間平均 **6** 回程度開催

### 効果的な運営の工夫

年6回運営協議会を開催することで、密接な関係を築き、特に公民館との連携を深めることで、学校運営や地域との繋がりをこまめに確認している。協議会開催の期間を短くすることで、ショートスパンで取組の確認を行うとともに、見直しを図ることもできている。

情報発信を大切に、たより等を全戸配布することで学校運営協議会の取組を地域に公表し、共通理解を図っている。また、教職員向けのたよりも作成している。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

これまで取り組んできた様々な活動と、北方小学校運営協議会の「目指す北方っ子」を系統づけ、学校・子ども・家庭・地域がそれぞれ何について、どのように頑張ればよいか協議を行った。その結果を「北方っ子育成頑張りプロジェクト」として、学校・子ども・地域・家庭それぞれが目指す姿に見える化し、地域住民全体による継続的な活動を展開することとした。



北方っ子育成頑張りプロジェクト

[https://www.tome-c.ed.jp/kitakata-svo/school\\_plan](https://www.tome-c.ed.jp/kitakata-svo/school_plan)

### 地域学校協働活動

各プロジェクトを実行する際には「北方小応援団」(地域学校協働本部)と連携し、学習・行事・安全・環境・その他の活動を実施している。特に北方コミュニティの中核をなす公民館と密接に連絡を取り合うとともに、ハブ的な役割を担ってもらうことで必要な人材等の協力を仰いでいる。



北方小スクールキャラクターとのコラボ(頑張りプロジェクト目標のイメージ化)



北方あいさつの日[登校見守り]

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- ◆学校運営協議会の活動を地域に知ってもらうため、学校運営協議会だより[地域全戸配布:題名・縁(えにし)]を発行し、周知を図っている。また、教職員に対しC.S共通理解だより[教職員向けたより:ALL FOR ONE]を配布し、意識の向上を図っている。
- ◆北方っ子育成頑張りプロジェクトを様々な機会に地域に周知し、地域全体で子どもを育成する機運を醸成している。
- ◆地域住民と子どもたちの交流の場を設定し、自分たちは地域の中で育てられている、という実感を得る機会を増やしている。

## 取組

## 成果・効果

- ◆「北方っ子育成頑張りプロジェクト」の目標達成のための方策・具体策を見出すために、児童・保護者対象に児童の生活アンケートを実施した。その結果を基に熟議の内容を定めたことで、児童や家庭の願いや実態に即した熟議を行うことができた。
- ◆委員の中からアンケート等の集計についても自分たちで行いたいとの意見が出た。実際に委員が集計を行ったことで、学校任せになることなく自分事として協議会に関わり、意識の向上を図ることができた。
- ◆「北方っ子育成頑張りプロジェクト」によって、これまで単独で行われてきた取組(北方の里合宿通学、北方小スクールキャラクター等)において「頑張る」目標が明確になった。
- ◆それぞれの取組では地域住民や公民館等の協力も得ながら、実行委員会を組織して対応している。子どもたちにとっては、地域の温かみ・ありがたさを実感する場所としての効果があった。また、地域にとっては、北方の諸団体が子どもたちのために力を結集するだけでなく、様々な人たちの出会いにつながるとともに、応援団の幅も広がるといった効果もあった。
- ◆地域の協力を得るだけでなく、子どもたちが地域の行事に参加して関わることでWIN-WINの関係になっている。